

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆様方には、平成 31 年という輝かしい年をご壮健にてお迎えになられたことと、心からお慶びを申し上げます。

今年の三が日は、大変穏やかなお正月でした。家族お揃いで初詣やご実家に行かれたり、楽しい新春をお過ごしになられたことかと思えます。

今日から平成 31 年がスタートしますが、まずは昨年 1 年間皆様方にはそれぞれの立場で職務に精励をしていただき、住民の皆様の福祉の増進、さらには町政進展のためにお力添えをいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

そして私事になりますが、12 月 16 日に投開票が行われた町長選挙において、3 選を果たすことができました。これも、一步一步着実に町づくりに励んでいただいたおかげであると心から感謝を申し上げたいと思います。ただ、残念ながら投票率が 37%と過去最低でした。前回は、衆議院選挙と一緒にであったということもあり 57%。前々回が、町長選挙だけでしたが 51%と、それらと比較すると約 20%または 15%下がってしまいました。あらためて、住民の皆様に政治に関心を持っていただくことは難しいことだと感じました。4 月には統一地方選挙が行われますが、地域のまちづくりや政治に目を向けていただけるよう、努力をしていかなければならないと思っています。

さて、平成 31 年が明けました。今上天皇陛下ご即位 30 年の慶賀の年でございます。4 月に譲位をされるわけですが、天皇陛下のお仕事というのは皆さんもご存知の通り、国事行為をはじめ、さまざまな公務があり、大変お忙しい日々を送られています。明治以前はその時代時代によって、おおむね 10 年から 20 年の在位期間でしたが、明治以降は終身在位ということで、80 歳を過ぎてもなお国事行為に取り組んでおられるお姿に、私は心を痛めていたところでございます。日本最高位の神官、神主という役割は、天皇陛下の最も大事なお仕事です。年間 20 以上のお祭り「皇室祭祀」があり、そちらに祭司として参加をされていて、元日も早朝から元旦祭や四方拝という神事を執り行っておられます。大晦日から潔斎し（身を清め）て祭事に臨み、しんしんと冷え込む早朝に何時間も正座をし、四方拝をする大変なお仕事でございます。「国安かれ、民安かれ」と天神地祇にお祈りをしながらも、さまざまな立場から国民に寄り添っておられます。大変不敬な表現かもしれませんが、私は天皇陛下のこのお姿に、世界に類を見ないリーダー像というものを感じています。

かつて、政治というのは「政（まつりごと）」と言いました。古代から「祭政一致」と言いまして、おまつりと政治は一つであります。天神地祇に国あるいは国民の平安を祈

る、その気持ちで政を行うのが、日本古来の政治の在り方であると私は思っております。まだまだ私はその足元にも及ばないわけではありますが、その政の心を大事に1年間取り組んでいきたいと思っております。それは私だけではなく、皆さんもそれぞれの立場で住民の皆様の福祉の増進を祈りながら、出来る政策を具体的に行っていくことが大事だと考えています。

そして昨年のマレーシアのペタリングジャヤ市との交流、それから暮れの選挙を通じて、町づくりにとって何が大事であるかを考える機会をいただきました。広報みよしの1月号にも少し触れさせていただいていますが、町づくりにとって大事なものは、「愛」と「信頼」だということを学ばせていただきました。

愛というのは、赤ちゃんからお年寄りまで、一人一人の命や存在を大切に思う心、そして先人たちが残してくれた歴史、伝統、文化、自然をしっかりと後世に継承していくことです。また、今だけ良ければいいという考え方ではなく、たとえ痛みを伴うことがあっても、5年後、10年後、100年後の幸せやこの地域の発展を担うことに対する責任が、愛には必要です。そしてその責任は未来へのビジョンを生み出し、そのビジョンが具体的な政策を生み出すのです。愛は責任であり、責任はビジョンと政策を生み出し、それが未来を切り拓いてくれるということ学ばせていただきました。

そして、信頼。社会は人と人とのつながりによって構成されています。そのつながりを構成している大事なものが、信頼だと思います。信頼というのは人として当たり前の生き方をする、真実の心を持って生きていく、人を裏切らないということです。そうした信頼が人と人をつなぎ、大きなマグマの嶺となって、未来を変えていくのです。また、信頼は一朝一夕にできるものではありません。共に目的に向かって汗を流し、時には葛藤や苦しみや涙を流すこともあるかもしれません。しかしながらそれを乗り越えたときに、信頼は非常に大きな、大きな力になると思います。愛は未来へのビジョンであり、そして信頼は町を、未来を切り拓く大きなエネルギーになると、そんなことを感じさせていただきました。

私は神主をしておりまして、お正月だけは神明に奉仕をさせていただいております。息子のお嫁さんも神道に関心を持ち、昨年神職の資格を取ったことから、今年のお正月は私と息子、息子のお嫁さんの3人で神事を執り行いました。神明に奉仕をするときに一番大事なことは、心をつにして無心になって奉仕をすることです。そのためにはお互いの呼吸を合わせる事が重要です。禰宜は宮司に呼吸を合わせ、宮司も周りの禰宜に対して呼吸を合わせて神事をします。前に進むとき、退くとき、あるいは一緒に拝礼をするとき。すべてにおいて一糸乱れず、心が一つになって神明に奉仕ができたときには、

その心は神様に通じるのではないかと思います。あらためて、呼吸を合わせることは非常に大事だと思いました。

「愛とは 呼吸がぴったりと 合うことである」

という坂村真民さんの詩があります。呼吸とは吸って吐くという、生きていく上で一番大事なものです。人が生きる上での息吹、あるいはその実存そのものかもしれません。人の息吹というのは、嬉しいとき、悲しいとき、苦しいとき、急いでいるとき、ゆとりがあるとき、それぞれ呼吸が違います。その異なる呼吸にお互いがぴったりと合わせる時、そこに愛が生まれ、それが大きな力になるということを、今回神明に奉仕をさせていただき感じました。

今年1年間が新たにスタートいたしますが、天皇陛下の政の姿を範としながらも、愛と信頼と、そして職員と住民の皆様と呼吸をぴったりと合わせる町づくりに励んでいきたいと考えています。

平成31年は、新しい御世が始まります。日本にとって、大きな節目の年です。節目の年はチャンスとき、そしてチャレンジときです。お互いに未来の三芳町の発展のために、それぞれの自分の人生の発展のためにチャレンジをする1年にできればと思っています。あらためて今年1年間、町政進展のために皆様のお力添えをいただきますよう心からお願い申し上げますとともに、皆様にとってすばらしい年になりますことをお祈りいたしまして、年頭のご挨拶に代えさせていただきます。1年間よろしく願いいたします。